

標準委員会 システム安全専門部会 炉心燃料分科会

第 18 回 (S1SC18) 議事録

日 時：2015 年 12 月 9 日(水) 10:00～11:55

場 所：原子力安全推進協会 第 3、4 会議室

出席者：阿部主査(東大)、北島副主査(電中研)、鈴木嘉章幹事(原安進)、青木委員(MNF)、
天谷委員代理三原(JAEA)、亀田委員(関電)、河村委員(電中研)、草ヶ谷委員(GNF)、
黒崎委員(阪大)、笹川委員(NFI)、鈴木雅克委員代理高松(原電)、福田委員(MHI)、
巻上委員(東電)、本谷委員(東芝)
計 14 名 (委員代理 2 名含む)

常時参加者：久保(NFI)、杉村代理武井(NEL)、中井(関電)、廣瀬(NRA)

(敬称略)

配付資料：

- S1SC18-1 第 17 回分科会議事録(案)
- S1SC18-2 人事について
- S1SC18-3 技術レポートの発刊
- S1SC18-4 技術レポートの講習会について
- S1SC18-5 標準の誤記チェックについて
- S1SC18-6 作業会の廃止について
- S1SC18-7-1 軽水炉安全技術・人材ロードマップについて
- S1SC18-7-2 日本原子力学会 安全対策高度化技術検討特別専門委員会報告書について

参考資料：

- S1SC18-参考 1 炉心燃料分科会に関連した活動について
- S1SC18-参考 2-1 炉心燃料分科会 分科会委員名簿
- S1SC18-参考 2-2 炉心燃料分科会 作業会委員名簿
- STC34-5-1 誤記対応における『重要度高の標準の選定』及び
『緊急度の高い標準の誤記確認作業』の実施について(依頼)
- STC34-5-2 システム安全専門部会の検討結果
- SC60-10-2 システム安全専門部会 標準策定 5 ヶ年計画(平成 27 年度版)

議事

1. 出席者/資料確認

委員出席者数(14 名、うち代理 2 名)が確認され、本分科会の定足数(13 名：委員数 19 名の 2/3 以上)を満たすことが報告された。

議事次第に基づき、配布資料の確認が行われた。

2. 人事について (S1SC18-2)

炉心燃料分科会として、すでにメール審議を終えており決議された案件が 2 件あり、

それぞれ第 30 回システム安全専門部会(12/3)、第 32 回システム安全専門部会(6/1)で紹介され、分科会委員の新任が承認、常時参加者の登録が確認されていると説明された。また、その 3 で、阿部主査の所属変更が確認された。

3. 前回議事録(案)の確認 (S1SC18-1) / その後の活動について (S1SC18-参考 1)

第 17 回議事録(案)について報告され、承認された。

前回分科会以降、技術レポートは分科会内レビュー、システム安全専門部会の確認を経て、システム安全専門部会に報告し発刊の了承を得た。その後、発刊に向けた手続きの過程で、転載許諾手続きにおける指摘事項、事務局の確認手続きにおけるコメント、また、これらを確認する過程で気づいた点があった。これらの指摘事項等に対する修正は、いずれも技術的内容の変更を伴うものではなく、記載の適正化(編集上の修正)であるとの判断について分科会内でメール審議した。システム安全専門部会、標準委員会に報告し、記載の適正化であると承認され発行が認められた。これらの経過が報告され、技術レポートが発刊されるまでの状況が説明された。

4. 技術レポートの発刊と講習会について (S1SC18-3、18-4)

技術レポートは 10 月 21 日に発刊され、売れ行き好調で増刷になったこと、第 3 分冊の図で印刷上のわずかな汚れがあったので第 2 刷は直されていることが報告された。

「知識・知見の普及促進のため、標準はもちろん技術レポートも積極的に講習会を企画すること」と指導があったことも踏まえ、講習会の企画案を検討した。

技術レポートは、炉心・燃料を勉強する教科書としても使えるので学生の参加も促したい。その時に業界の魅力を伝える企画(説明ブースや懇親会等)があると良いと意見があった。しかし、スペースや日程の面で難しいと判断し講習会は 1 日で行うとなった。このため、3 分冊のうち、まずは第 1 分冊を中心に考え様子を見て次を考える。時期は、2016 年 4 月または 5 月を予定、最大 50 名の参加を見込む案で、学会事務局に会場手配を依頼する。課題の整理から後半は分担の区切り方を再検討するとなった。

5. 標準の誤記チェックについて (S1SC18-5)

JSME 規格誤記問題を踏まえ、原子力学会の既存の標準を対象に誤記をチェックする。第 34 回システム安全専門部会(11/30)において、この依頼に対する検討結果を踏まえ、誤記チェックの優先度、確認方法が議論された。担当分科会が、標準の改定要否確認時期を踏まえ誤記チェックを実施していくこととなったが、次の 3 つは、担当分科会が休止中、廃止であるため、その対応を専門部会で検討することになった。

- 統計的安全評価の実施基準：2008 (統計的安全評価手法標準分科会)
- BWR の核熱水力安定性評価基準：2007 (BWR 核熱水力安定性評価分科会)
- BWR における過渡的な沸騰遷移後の燃料健全性評価基準：2003 (炉心・燃料分科会)

「BWRにおける過渡的な沸騰遷移後の燃料健全性評価基準：2003」は、炉心燃料分科会がチェックの指示を受けると予想していたが、専門部会として対応（改定の要否、最新知見の反映の有無など）を検討するとなっており、指示に応じて分科会は対応することが確認された。

5. 作業会の廃止について (S1SC18-6)

4つの作業会を設置して検討してきたが、技術レポートを発刊し作業会としての所定の任務が完了したので、廃止となった。

6. その他

炉心及び燃料に関連した課題について、「軽水炉安全技術・人材ロードマップ」策定の中で検討しており、炉心燃料分科会はこの検討も踏まえて新規に標準策定が必要な項目を考えていくことが確認された。

標準策定5ヶ年計画は、実績で技術レポート発刊、講習会の予定を入れて更新して、専門部会に報告する。

分科会の出席状況を整理する。「標準委員会 専門部会運営通則」にて「貢献度が低いと判断された場合に当該委員の解任」を申し出ることができると規定されており、評価するための具体的な帳票がなかったので、これを定めて運用するように指示があったことが報告された。

次回の分科会開催日は、講習会の準備を踏まえてその前に開催することを考え、別途日程調整することを確認した。

以 上